



医聖ヒポクラテスは、この樹の下で弟子たちに医学を説いたといわれる

外科医は世界一のお金持ち



慈恵医科大学外科学講座
統括責任者・血管外科教授

大木 隆生

(おおき たかお)

1987年慈恵医大卒。2005年米国アルバート・アインシュタイン医大教授。06年慈恵医大教授。血管外科領域で多くの本邦初の手術に取り組み、国際的な評価も受けている。

私はかねてから人間は「衣食足りて、トキメキを求める」と思っています。暁星中学時代に将来の進路を選択する際にも、この「トキメキ」を基軸に選びました。先生に「私は人に感謝されるのが好きですが、最も感謝される職業は何ですか？」と問うと、「弁護士か医師である」と教えてくれ、私は医師、中でも最も「治

した」という実感が得られやすく、より感謝されるであろう外科医を志しました。以来、左手で箸を使うなど、指の巧緻性を高める努力を続けてきました。その後、首尾良く慈恵医大に入学し、初志貫徹して外科医となりました。人間の欲望にはいろいろなありますが、生理的なものを除けば概ね飽きるものです。そ

の最たるものが金欲、権力欲です。「衣食足りる」程度の経済力はとても大切ですが、過分なお金は人間を幸せにするのにもあまり貢献しません。そういう意味でお金は「水」と似ています。所要量がなければ困りますが、過分な水があっても意味がありません。実際、米国から日本に帰国し、年収は10分の1以下になりましたが、それでも「衣食足りる」程度以上にありますので、インパクトは感じません。

一方、外科医は毎日、生涯にわたり、より崇高なトキメキを感じられるのです。慈恵医大には全国から治療不能と言われた患者が多数訪れ、彼らの命を日々救っており、それが、その際に得られる充実感、ビル・ゲイツが全財産を叩いても一度も味わえないものです。外科医が日々味わっているトキメキをお金に換算したら、外科医は世界一のお金持ちと言えます。

人間にとって最も普遍的な欲望は「人に感謝される」ことです。私は米国で12年、日本で9年外科医として活動しましたが、洋の東西を問わず、メスを握り、患者の命を預かり、己の知識と技量で命永らえさせる外科医療で得られるトキメキはプライスレスで、5000件以上の手術を施行した現在でもまだ飽きません。ビル・ゲイツは世界一のお金持ちと言われますが、本当にそうでしょうか？ お金はあくまでもトキメキを得る手段であり目的ではありません。彼

近年、我が国で外科医不足が叫ばれていますが、外科医療を通じて得られるトキメキに加えて、後進の育成や研究開発の楽しさを若者たちに伝えることができ、若干の労働環境の改善がなされれば外科は瞬く間に再生するでしょう。神様が私に「ビル・ゲイツと大木隆生」のいずれになりたいか選びなさいと問うたら、私は迷わずに後者を選びます。